

常磐松文庫蔵『さ夜衣』〈甲本〉影印

本学大学図書館常磐松文庫には、二種類の「小夜衣」写本が収蔵されている。いまこれを甲本・乙本と仮称するが、両本ともに、この春刊行された名古屋国文学研究会編『小夜衣全注釈 付総索引』（平成十一年 風間書房刊）所収「解説」の諸本紹介で、取り上げられたものである。

同本の刊行に因み、「年報」の方でも、これらの影印を二回に分けて紹介してゆきたいと思う。

なお、影印に付した基礎的な書誌解題は、文芸資料研究所が担当したが、常磐松文庫本「小夜衣」甲乙二本の特色その他については、別途、解題を用意している。

【書 誌】

常磐松文庫蔵「小夜衣」〈甲本〉写本三冊。

木箱入り。箱の上蓋中央に「小夜衣 三冊」と墨書。箱の側面にも「さよ衣」と墨書した小紙片を貼付するが、この紙片は新しい。

写本を白絹で包むが、この絹布は隅に「左古路毛」の墨書あり。

列帖装（各冊四括り・四孔・朱色糸）。表紙寸法縦約二三・五×横約一六・七糎。

紺地金泥紙表紙。中央に白地に金泥細画入り書題簽貼付。題簽寸法縦約一三・六×横約二・八糎。題字は全冊同筆で、それぞれ「さ夜衣 上」（上册）・「さ夜衣 中」（中冊）・「さよ衣 下」（下冊）と墨書。

前後見返しには、型押し布目地模様金箔を使用。本文料紙鳥の子。

枚数内訳は次の通り。（但し影印では後遊紙を一部省いている）

下冊	中冊	上册	前遊紙	本文	後遊紙	小計
1	1	1		60	3	64
70	61	2				64
1						72

内題無し。片面一〇行・一行二〇字内外。和歌は改行二字下げ二行分かち書き、地の文が改行して後続する。歌数は、上册二十一首（但し、「さりともと心のうちは頼めとも待つにむなしき数つもりけり」は地の文として記される）、中冊十二首、下冊二十三首の計六十六首。訂正時には多く胡粉を用いるが、稀に次のような例もある。例えば

たてまつ給ふ（上册 三十九丁オ ⑩行目）

待るつる（上册 五十九丁ウ ⑨行目）

もふけ給て（下冊 六十八丁ウ ④行目）

墨色から推すに、これらは本文書写とは別時のものであろう。全冊一筆。朱筆書き入れ無し。

奥書・識語無し。旧蔵者印記無し。各冊前遊紙一丁オに「実践女子大学図書館」（単郭朱長方丸印）、後遊紙に同印ならびに「常磐松文庫印」（単郭朱長方印、印内に「五九二二三」）、「五九二一五」の図書原簿番号を墨書）を捺す。

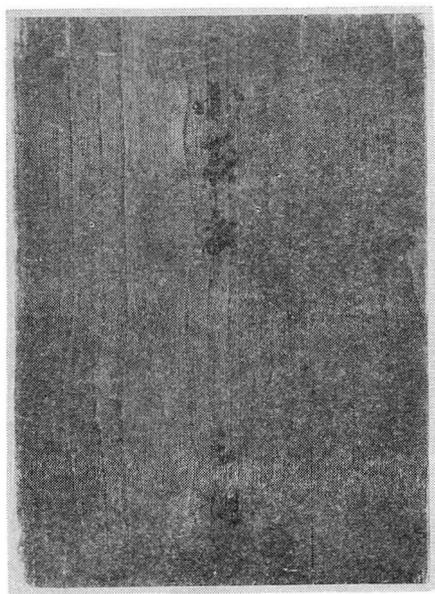
本とは別に「さ夜衣極札」と宛名書きした包み紙があり、その中にも「さよ衣之札 三冊」と宛名書きした包み紙がある。

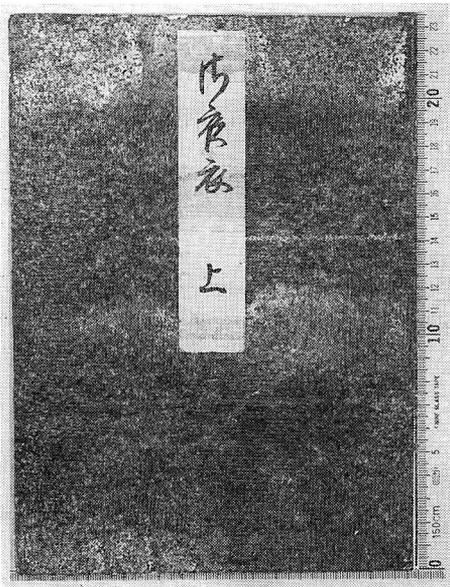
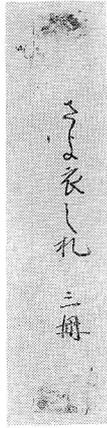
また下冊最終丁ウには「九条兼勝 いつのとしとハ

朱印

」と墨書した、二代目畠山牛庵の極札が貼付されている。

（文責 上野英子）





由神話よりたゞしつゝ神話とてわづらひ
— 昔人はたゞのこゝにたゞあつたゝらう言ひ
神話人（人）とてさうあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ

すもろくやよひのうらけのうらけのうらけ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ
あつたゝらう言ひあつたゝらう言ひあつたゝらう言ひ

八月ついでにさ夜衣へりと軍相と
 すめきも世とそなたさ夜衣のついで
 まつひついでついでついでついで
 軍相のついで

さ夜衣のついでにさ夜衣へりと軍相と
 すめきも世とそなたさ夜衣のついで
 まつひついでついでついでついで
 軍相のついで

してんやとてくも新しき一處のひまをたれ
 色り 終る人々の心通の事 終る人々の心通
 一 断り入しんや けしきをうらりてとてくも
 言のあまきりてとてくも 入しんや けしきを
 くも けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 ありてとてくも けしきをうらりてとてくも
 まう けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 終る人々の心通の事 終る人々の心通の事
 一 断り入しんや けしきをうらりてとてくも
 言のあまきりてとてくも 入しんや けしきを
 くも けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 ありてとてくも けしきをうらりてとてくも
 まう けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 終る人々の心通の事 終る人々の心通の事

一 断り入しんや けしきをうらりてとてくも
 言のあまきりてとてくも 入しんや けしきを
 くも けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 ありてとてくも けしきをうらりてとてくも
 まう けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 終る人々の心通の事 終る人々の心通の事
 一 断り入しんや けしきをうらりてとてくも
 言のあまきりてとてくも 入しんや けしきを
 くも けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 ありてとてくも けしきをうらりてとてくも
 まう けしきをうらりてとてくも 入しんや けしきを
 終る人々の心通の事 終る人々の心通の事

ひときりひさしの昔ひさしに
 白くもみす人なれどさなも
 涙みももすゆゆのやもふ
 月をさすともおのひし
 ぬくひのまひりこもさし
 又さうけつこひひのさ
 ぬきさうけつこひひのさ
 ぬきさうけつこひひのさ
 ぬきさうけつこひひのさ

あもむとあひの解つあもむと
 ひとくくくくくくくく
 しをたてまうまうまうま
 やういひまひまひまひま
 うののののののののの
 ひまをのまうまうまうま
 ひとあつてまうまうま
 むんはつてまうまうま
 大木れりまうまうま

この世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの

まうまうまうまうま
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの
 世の世のうつくしきもの

<p> 母年よりかゝるるんををらぬりきとてまた せりとつとまつる腰からさしいをりてわ さいらんをほしとまりとぬるいなをほしとぬ つかぬゆいしとをこくかしてとてあつれ もりまうくを老人のひかりつとてさあわ くぼりあすぬありてつとぬるいさ言 夫もゆいとてさぬてぬるいぬすまはあ さらんてぬすうぬぬぬぬぬぬぬぬぬ さいにぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ </p>	<p> せるとんとてひてせうぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ </p>
---	--

<p> ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ </p>	<p> ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ </p>
---	---

こころをこころの物なりとてわづらひけり物
 断りて世の心と名づくも愛もまじくま
 らしむる心と世の心と明しありて世の心
 をまじくす世の心と名づくも愛もまじく
 世の心と名づくも愛もまじく世の心と
 明しありて世の心と名づくも愛もまじく
 世の心と名づくも愛もまじく世の心と
 明しありて世の心と名づくも愛もまじく
 世の心と名づくも愛もまじく世の心と
 明しありて世の心と名づくも愛もまじく
 世の心と名づくも愛もまじく世の心と
 明しありて世の心と名づくも愛もまじく
 世の心と名づくも愛もまじく世の心と
 明しありて世の心と名づくも愛もまじく

わるき世にせんさか
 世つづいては世つづいては
 世つづいては世つづいては

是非の事なきはまはるるにそとせむもあはれ
 こそふゆを思はばこころのこころもあはれ
 こそよめて思ふはあはれのみことふゆ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ

若しはさへ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ
 こそ思ふはあはれのみことふゆこそ

きまはらせとらふもつとやと夜夜衣を
 一の和らふとらふもつとやと夜夜衣を
 人のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 神のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 母のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 父のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 子のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 曾孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 玄孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 来孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 子孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 曾孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 玄孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 来孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 子孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を

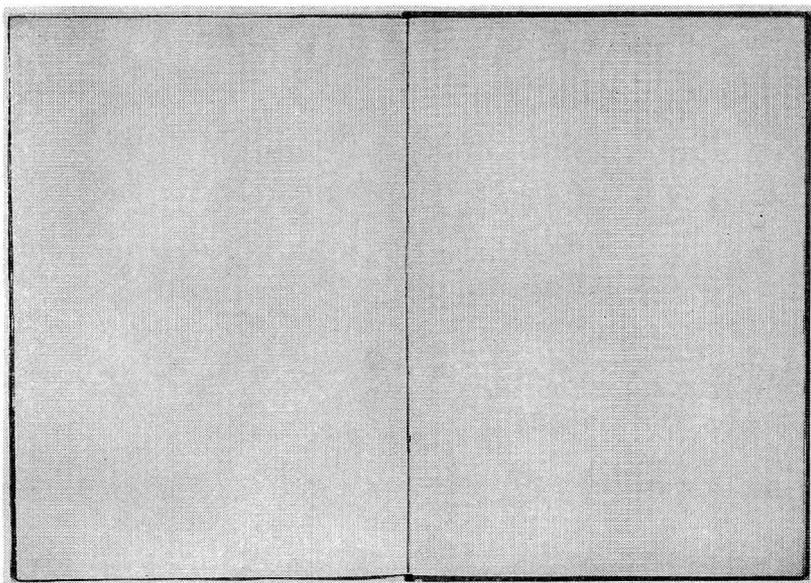
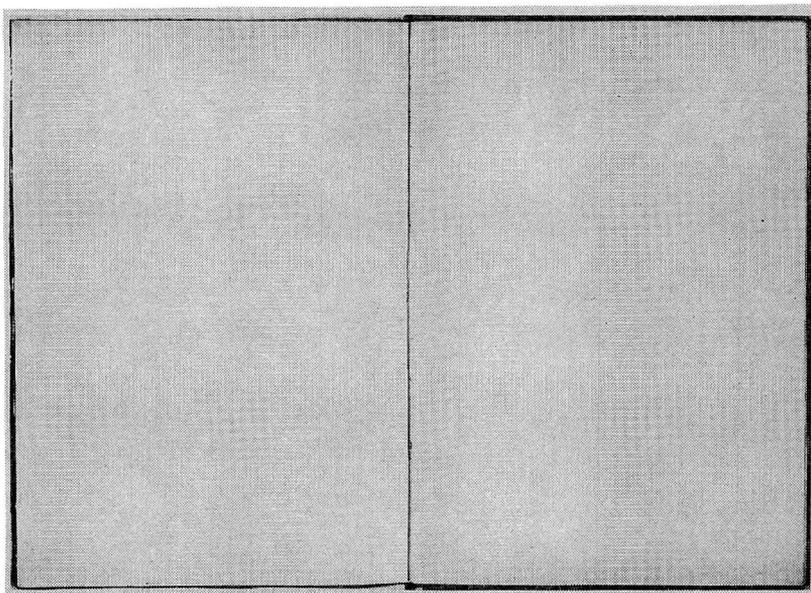
神のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 母のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 父のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 子のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 曾孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 玄孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 来孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 子孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 曾孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 玄孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 来孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 子孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 曾孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 玄孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 来孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を
 子孫のあはれとらふもつとやと夜夜衣を

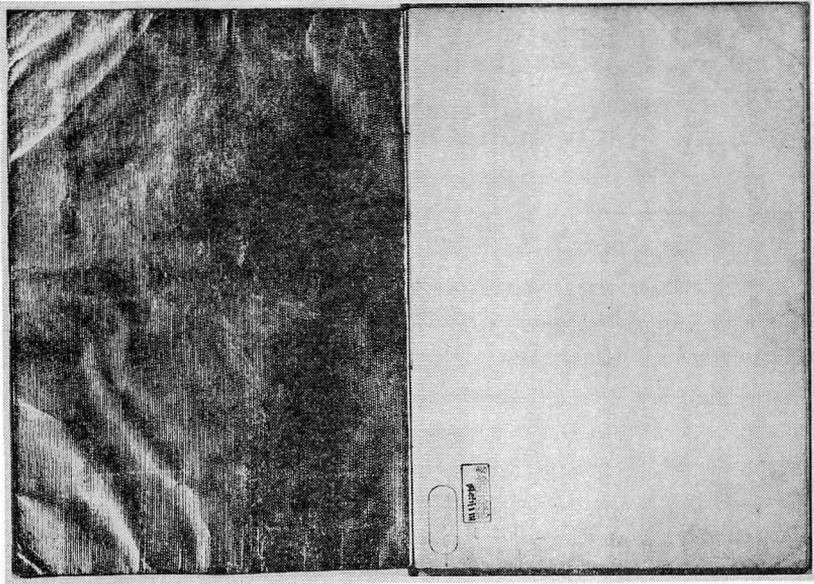
うまらうとてかあをぬらうと新しうなり
 けりてあはれもせんぬらうと風のふりて
 くれしとてゆつるぬらうとつるらんあや
 扇とてゆつるぬらうとつるらんあや
 けりてあやとてつるらんあやとつるらんあや
 中さそとつるらんあやとつるらんあや
 つふとつるらんあやとつるらんあや
 ぼゆとつるらんあやとつるらんあや
 けりてあやとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや

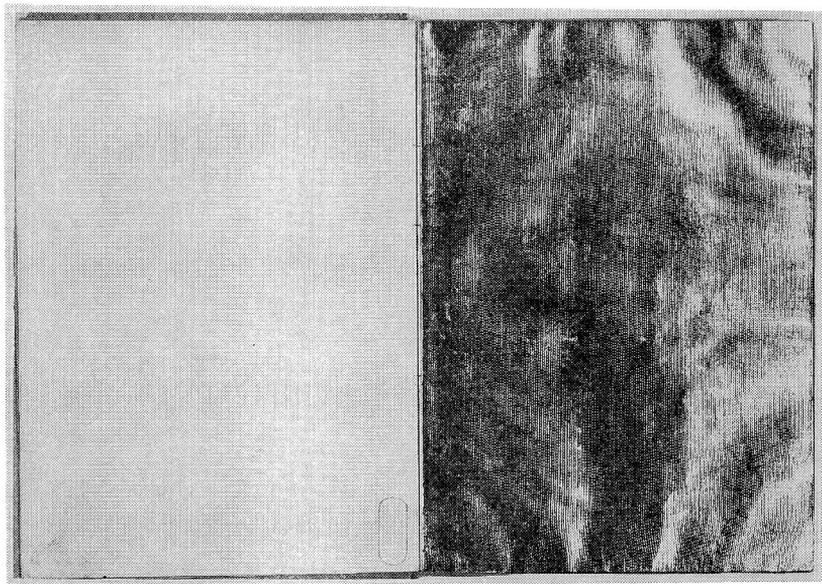
枯れをひつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや

くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや

くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや
 くれしとつるらんあやとつるらんあや





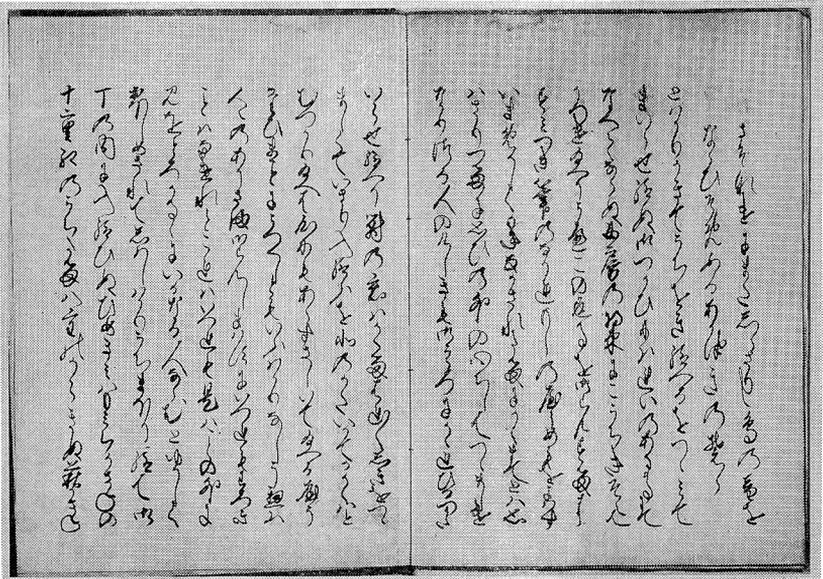
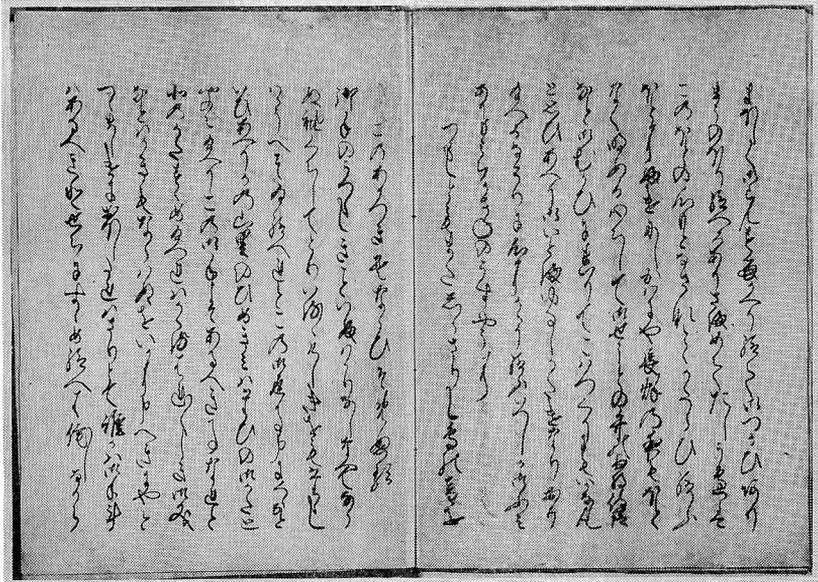


と雖も其の意はよくよくとて一瞬の如く
もして有る世なり可ん如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く

くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く

くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く
くも其の如く一瞬の如くも一瞬の如く

あつた人々との世内をめぐりては世も世なり
うらやまの世も老いせよとて世も人の世との
事なくくハハとて世の世なりとて世も世なり
も世なりとて世も世なりとて世も世なり
あつた人々との世内をめぐりては世も世なり
うらやまの世も老いせよとて世も人の世との
事なくくハハとて世の世なりとて世も世なり
も世なりとて世も世なりとて世も世なり



のころはさうもなやうな事ありはしなかつた
 へしとめまゝあつたりはしてゐた。……
 かりつて人のあつた隙はうへへつゝと……
 他人をんとしてゐるやうな……
 聲をきかしてゐるやうな……
 わつぱりつゝ……
 ちやうど……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……

ちとよかむとわたりぬじ〇のうら
 いぬとつうはねあはれん人かたは
 とよとぬとよとじつとよとぬとよと
 代もわたりぬとよとぬとよとぬと
 わたりぬとよとぬとよとぬとよと
 ちとよかむとわたりぬじ〇のうら
 いぬとつうはねあはれん人かたは
 とよとぬとよとじつとよとぬとよと
 代もわたりぬとよとぬとよとぬと
 わたりぬとよとぬとよとぬとよと
 ちとよかむとわたりぬじ〇のうら
 いぬとつうはねあはれん人かたは
 とよとぬとよとじつとよとぬとよと
 代もわたりぬとよとぬとよとぬと
 わたりぬとよとぬとよとぬとよと

ちとよかむとわたりぬじ〇のうら
 いぬとつうはねあはれん人かたは
 とよとぬとよとじつとよとぬとよと
 代もわたりぬとよとぬとよとぬと
 わたりぬとよとぬとよとぬとよと
 ちとよかむとわたりぬじ〇のうら
 いぬとつうはねあはれん人かたは
 とよとぬとよとじつとよとぬとよと
 代もわたりぬとよとぬとよとぬと
 わたりぬとよとぬとよとぬとよと
 ちとよかむとわたりぬじ〇のうら
 いぬとつうはねあはれん人かたは
 とよとぬとよとじつとよとぬとよと
 代もわたりぬとよとぬとよとぬと
 わたりぬとよとぬとよとぬとよと

とぬつては商人の如く布巾の八分は
少しも捨つるれとて道中交まると人の
けしきもよくて徳母の也人として代りつゝ
有んたかあめあめとて此世をて懸けし
無きとて防よの杯のさうさうとて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
り世をけしきもよくて徳母の也人として
かえりつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸

有候いふれん人々そとあつても
あつても御心を治すらんとなりたり人
の智事可なり候ひとて改更をいふ
とていふの商人よりかへつゝあつて懸
り世をけしきもよくて徳母の也人として
かえりつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸

たあき世もあつていふれん人々そと
あつても御心を治すらんとなりたり人
の智事可なり候ひとて改更をいふ
とていふの商人よりかへつゝあつて懸
り世をけしきもよくて徳母の也人として
かえりつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸

とらつて練治くもいふれん人々そと
あつても御心を治すらんとなりたり人
の智事可なり候ひとて改更をいふ
とていふの商人よりかへつゝあつて懸
り世をけしきもよくて徳母の也人として
かえりつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸
るもあひつゝあつて人のとてあつて懸

ありあけのさ夜衣のひびいたるは
 まはらばゆきまのいりたれとまひりけり
 とんよあかむちあふりてとせはゆきま
 屋せりてゆきまをさしたるまはらば
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり
 ゆきまのいりたれとまひりてとせは
 いりたれとまひりてとせはゆきま
 やらぬまはゆきまのいりたれとまひり
 うまはゆきまのいりたれとまひり
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり

作らばゆきまのいりたれとまひり
 まはらばゆきまのいりたれとまひり
 とんよあかむちあふりてとせはゆきま
 屋せりてゆきまをさしたるまはらば
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり
 ゆきまのいりたれとまひりてとせは
 いりたれとまひりてとせはゆきま
 やらぬまはゆきまのいりたれとまひり
 うまはゆきまのいりたれとまひり
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり

さらばゆきまのいりたれとまひり
 まはらばゆきまのいりたれとまひり
 とんよあかむちあふりてとせはゆきま
 屋せりてゆきまをさしたるまはらば
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり
 ゆきまのいりたれとまひりてとせは
 いりたれとまひりてとせはゆきま
 やらぬまはゆきまのいりたれとまひり
 うまはゆきまのいりたれとまひり
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり

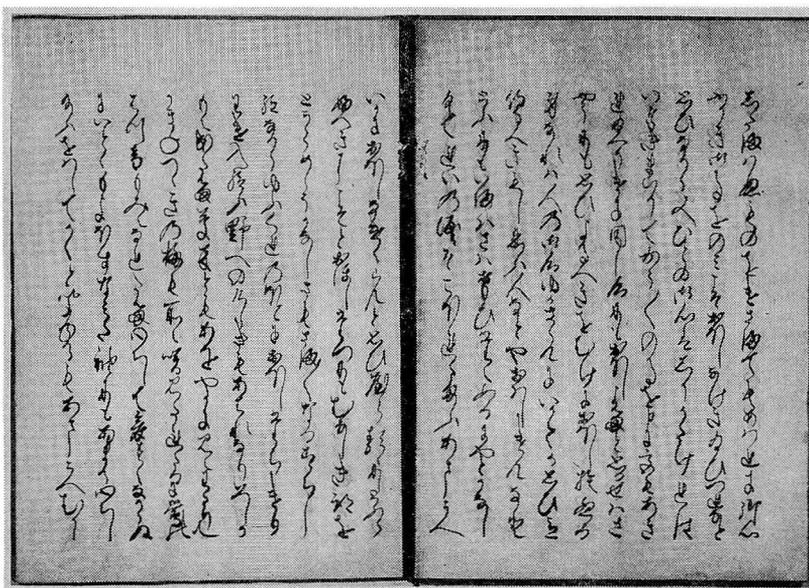
さらばゆきまのいりたれとまひり
 まはらばゆきまのいりたれとまひり
 とんよあかむちあふりてとせはゆきま
 屋せりてゆきまをさしたるまはらば
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり
 ゆきまのいりたれとまひりてとせは
 いりたれとまひりてとせはゆきま
 やらぬまはゆきまのいりたれとまひり
 うまはゆきまのいりたれとまひり
 名はすまはゆきまのいりたれとまひり

夫もいふてたつたてと別れし割りと長かき
 心よとせしむるにせまうなる間ひ海にせま
 ぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ

ぬらぬ人かまき世にあらぬ人かまきいぬ
 せぬ御ありし海にせまうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ
 たらぬふらとては渡りつらぬふらもうらふあがりつ

<p> へりしりもあはれりやの昔も人あはれし世 はあはれきんぬ入をう用はあはれし世のりり ての世もあはれりやの昔も人あはれし世 うあはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 あはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 こわし世もあはれりやの昔も人あはれし世 </p>	<p> へりしりもあはれりやの昔も人あはれし世 はあはれきんぬ入をう用はあはれし世のりり ての世もあはれりやの昔も人あはれし世 うあはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 あはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 こわし世もあはれりやの昔も人あはれし世 </p>
--	--

<p> へりしりもあはれりやの昔も人あはれし世 はあはれきんぬ入をう用はあはれし世のりり ての世もあはれりやの昔も人あはれし世 うあはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 あはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 こわし世もあはれりやの昔も人あはれし世 </p>	<p> へりしりもあはれりやの昔も人あはれし世 はあはれきんぬ入をう用はあはれし世のりり ての世もあはれりやの昔も人あはれし世 うあはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 あはれし世もあはれりやの昔も人あはれし世 こわし世もあはれりやの昔も人あはれし世 </p>
--	--



さびしうてあせりぬらぬとふくははくそ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ
とありあけいらちひあはれあつとあはれ

つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき

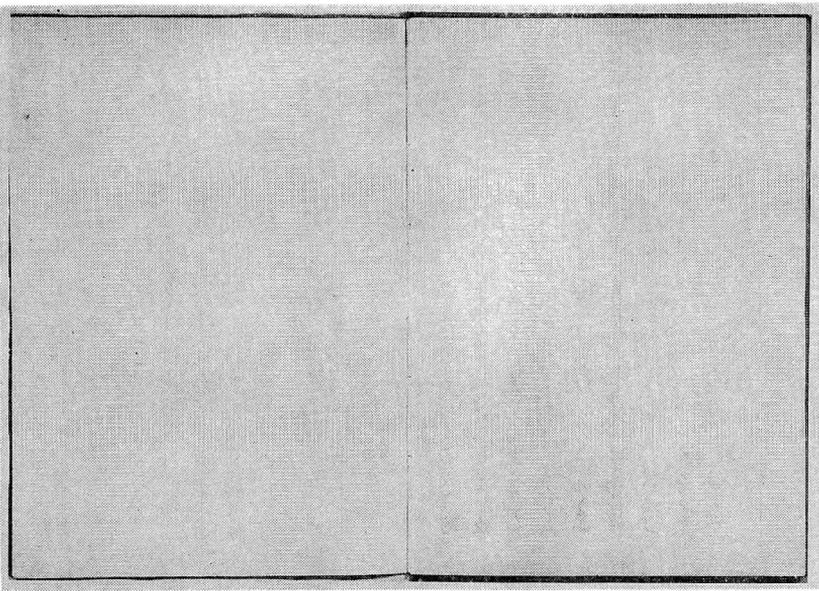
らうせふかぬらうらうらうとまづつゝふえ
 うくもけつるんばうふふふんふふふふふ
 あとと信りていふんわゆるんふふふふふ
 あらふとせむふふふふふふふふふふふ
 とうていふふふふふふふふふふふふ
 うふふふふふふふふふふふふふふふ
 せふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ

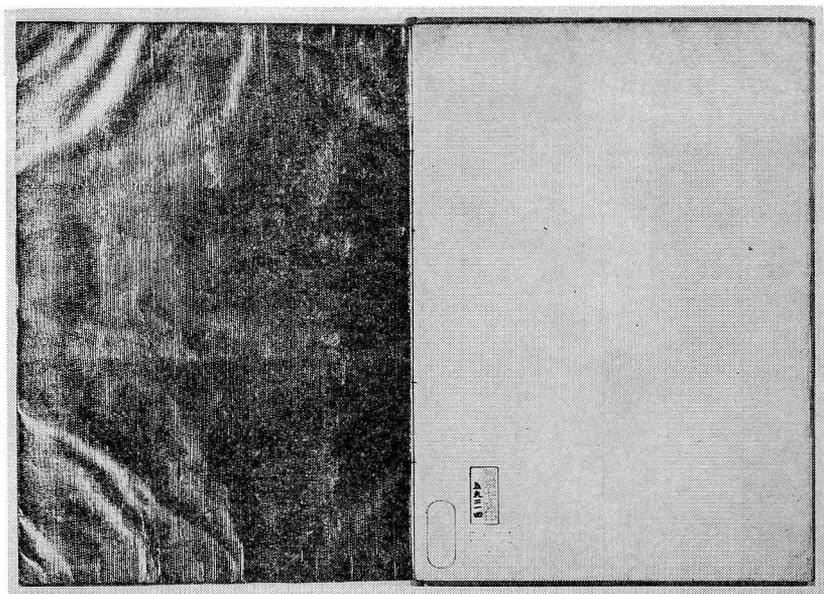
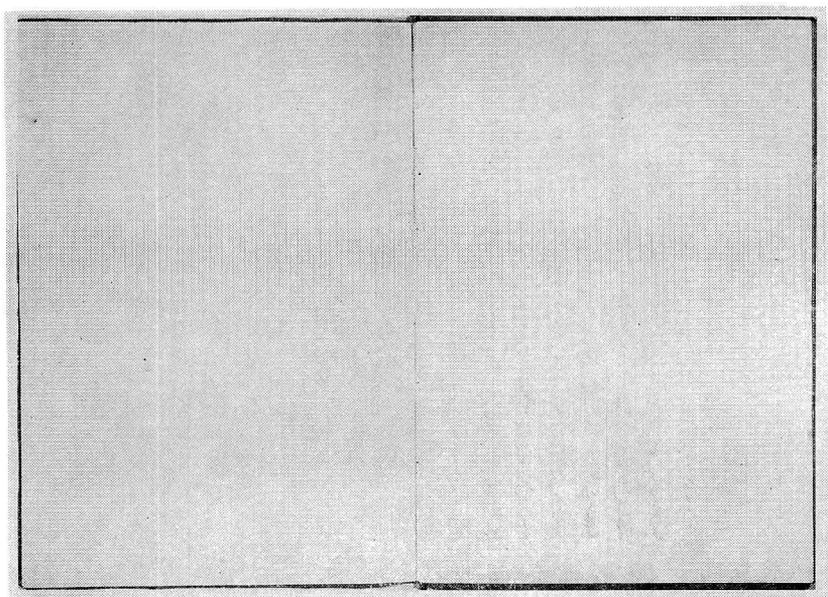
けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ

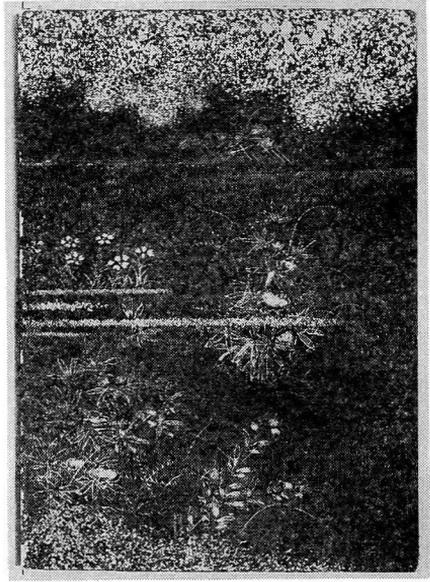
又ゆふとあやせうねむのねむのこころあわ
 うらふんふふふふふふふふふふふふふ
 へふふふふふふふふふふふふふふふ
 せむふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 うふふふふふふふふふふふふふふ
 せむふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 うふふふふふふふふふふふふふふ
 せむふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ

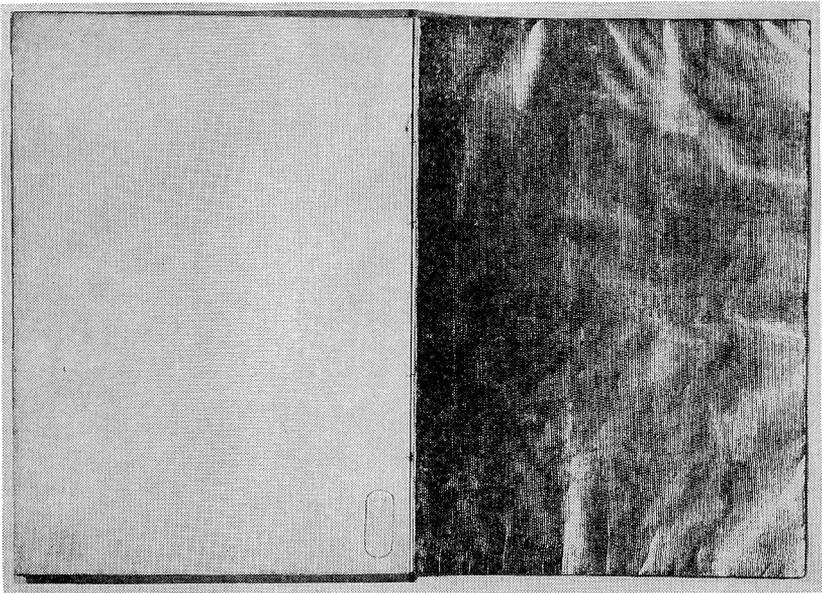
けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ
 けふふふふふふふふふふふふふふ

Handwritten Japanese text in two columns, likely a manuscript or letter. The text is written in a cursive style (sōsho) and is arranged vertically on the page. The right column contains approximately 15 lines of text, while the left column contains approximately 12 lines. The characters are dark and clearly legible against the light background of the paper.



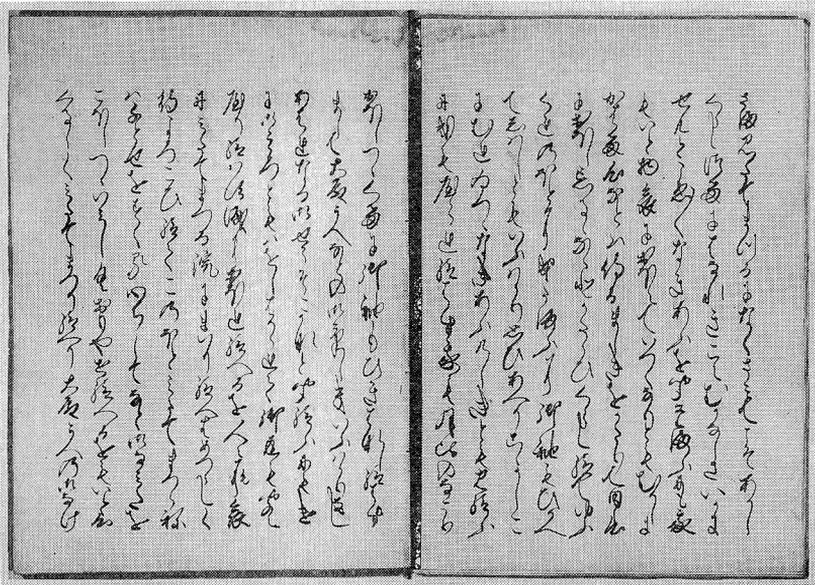
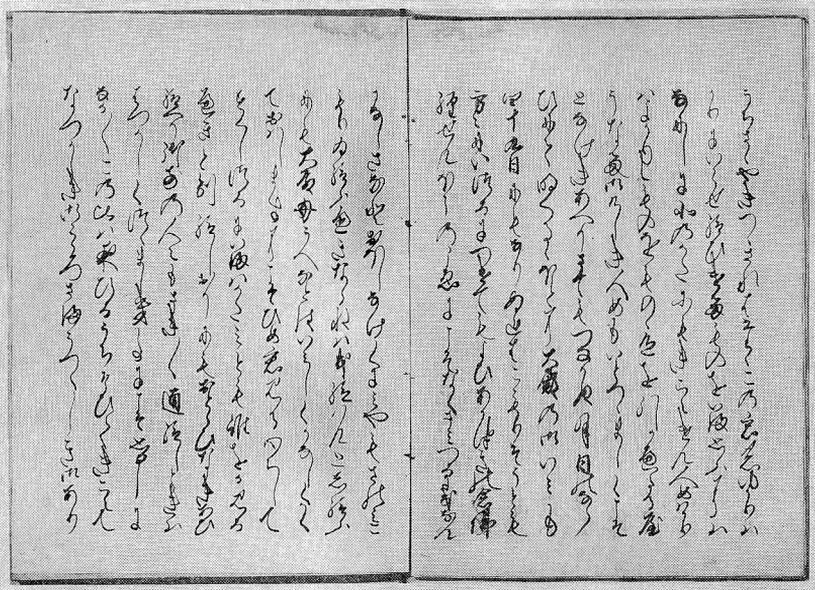






言の葉のうらをぬん月一ヶ
 とあはまふと字はがふえつらりたる
 らんくうあたまえ入つら ぼゆ
 くのしりつらうらふあたまえ
 ちんあはま月のひりまふ
 日新ついきくつらふあたまえ
 らうと道ははつらひあたまえ
 日新ついきくつらふあたまえ
 ちんあはま月のひりまふ
 日新ついきくつらふあたまえ

ちんあはま月のひりまふ
 日新ついきくつらふあたまえ
 らうと道ははつらひあたまえ
 日新ついきくつらふあたまえ
 ちんあはま月のひりまふ
 日新ついきくつらふあたまえ
 らうと道ははつらひあたまえ
 日新ついきくつらふあたまえ



傍らも母あつて仰りし人々もさうもあつた
ものか後さういふ所は傍らもさういふ
ちうくもあつたすか後さういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は

くてもさういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は

まも守つてあつた人々は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は

さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は
さういふ所は傍らもさういふ所は

かゝる心持に違ふは人共さなりのことな
るに心持もたまに心持するもさなりの事
此世あはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事
こゝろもあはれに心持するもさなりの事

心持するもさなりの事
心持するもさなりの事

りきなきはく色な路ありと大業に入りて
しに一人しんぢりてを違りてここは路を
初めとて一人しんぢりて常かありてか
やむいりては路ありて一人しんぢり
ゆかひりては路ありて一人しんぢり
とありては路あり

病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり

病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり

病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり

病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり
病にても病ありて病を病を
しんぢりて一人しんぢり
とありて一人しんぢり

劇言りてくゆしと二乃又言すそこと也
布とくしてゆき身厚又かまふそりあを
そものこきてゆき身厚いうまふのこみ
えゆきハきぬ五人もゆきすしんてふれは
あつとゆきまふらふにふらてゆきまふら
人ハゆきまふらふらふらふらふらふら
交りゆきまふらふらふらふらふらふら
ゆきまふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

て是の處に居るは、
物もさへなく、
とあるは、
御もさへなく、
なわらわりの、
紙より、
野原でも、
あつた、
とあるは、

又、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、

とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、

とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、
とあるは、

さ夜衣は八時より九時頃迄は
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後

かむゆく月ありき藤んをしくさのゆさ
きとつうくくさ藤んをしくさのゆさ
いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも

あつたは二つせのうらめしき
いづれもいづれもいづれも

さ夜衣は八時より九時頃迄は
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後

さ夜衣は八時より九時頃迄は
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後
いづれもいづれも入浴の後

しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木
はあつていひく 舟がなまをいひく 八木
つしとりの舟がなまをいひく 八木
しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木

しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木
はあつていひく 舟がなまをいひく 八木
つしとりの舟がなまをいひく 八木
しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木

しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木
はあつていひく 舟がなまをいひく 八木
つしとりの舟がなまをいひく 八木
しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木

しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木
はあつていひく 舟がなまをいひく 八木
つしとりの舟がなまをいひく 八木
しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木

しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木
はあつていひく 舟がなまをいひく 八木
つしとりの舟がなまをいひく 八木
しわのしをさつ 舟がなまをいひく 八木

<p> ころりしたる夜に へつりてはあつち とあつちのこころ くるまのうしろに けしきもよみなり けしきもよみなり </p>	<p> まりてはあつち へつりてはあつち とあつちのこころ くるまのうしろに けしきもよみなり けしきもよみなり </p>
---	--

<p> ころりしたる夜に へつりてはあつち とあつちのこころ くるまのうしろに けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり けしきもよみなり </p>	<p> まりてはあつち へつりてはあつち とあつちのこころ くるまのうしろに けしきもよみなり けしきもよみなり </p>
---	--

ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
地を所自にすたりりしとありのしはつて
くわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと

取なくひつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと

母を所自にすたりりしとありのしはつて
くわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと

取なくひつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと
ふのちのくわがわいしつたてを人ぬと

けり乃のそなう新あつてはゆかえ志進も
 身もあまは敷いぬつては位もはつておぼろ
 吉也もらんやとりくもさこそはつては
 うつゆくとさまもさういふもさつては
 くは平のち辰とのち園のゆつてはつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 ては乃の人とさうあはあつてはつては
 女もりらはつてはつてはつてはつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては

いらつて大判とたふりゆく中女乃のち辰の
 さうのち辰のち園のゆつてはつては
 ては乃の人とさうあはあつてはつては
 女もりらはつてはつてはつてはつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては
 けりや中女乃のち辰のち園のゆつては

